

# 水稲「にこまる」は疎植にしても慣行と同等の収量、品質、食味が得られる

## 「にこまる」の疎植栽培適性



水稲の疎植栽培（出穂期）

栽植密度	疎植 (11.1株/㎡)	慣行 (18.5株/㎡)
精玄米収量 (kg/10a)	657	655
整粒歩合 (%)	76.3	76.4
検査等級	1等中～ 2等上	1等下～ 2等中
食味値 (HON)	89	86

### 開発のねらい

本県の稲作においては、一層の省力・低コスト化が求められています。そこで、近年県南部で作付けが拡大している「にこまる」について、省力化技術の一つである疎植栽培への適性と、栽培上の注意点を明らかにしました。

### 新技術の概要

- 「にこまる」は、11.1株/㎡の疎植栽培にしても、18.5株/㎡の慣行栽培と同等の収量が得られます。
- 疎植栽培での玄米品質、検査等級、食味値は慣行栽培と差はありません。
- 疎植栽培では、成熟に伴う青未熟粒やその他未熟粒の減少が慣行栽培より少し遅れるので、早刈りは避ける必要があります。

### 活用場面

水稲の育苗、田植えにかかる労力を軽減できます。また、省力的に高品質米の生産が可能になり、本県の水田農業の発展につながります。